

私たちの自然



第 65 巻 No.651 2024 年 3・4 月号

特集 野鳥との共存・共生 ～身近な野鳥～

- 2 都市のバードピア紹介 (樋口公平)
 - 4 駅前にねぐらを構える鳥たちとの共存・共生 (三上 修)
 - 7 カラスとゴミ問題について考えてみる (中村眞樹子)
 - 10 ツバメとうまくやっていくために (佐藤信敏)
-
- 12 生きものはつながっている
コサギ (内田 博)
 - 14 生きものはつながっている
イモリ (関慎太郎)
 - 16 2023 年 国際サシバサミット in 台湾に出席しました (連盟 調査研究室)
 - 17 企業人のための生物多様性セミナーに参加しました (連盟 普及啓発室)
 - 18 第 57 回全国野生生物保護活動発表大会が開催されました！
(連盟 普及啓発室)
 - 20 第 57 回全国野生生物保護活動発表大会 講評 (秋山幸也)
 - 21 全国一斉テグス (釣り糸) 拾い 2023 報告
-
- 22 会員継続をお願いします！
 - 23 連盟だより / インフォメーション
 - 24 使用済み切手・カード類提供のお願い / 商品の注文について / バックナンバーの提供について
/ 会費の有効期限の見方 / 広告募集 / 編集後記

ネイチャーフォト

首の短いサギたち (江口欣照)

植物豆知識 < 32 > プラタナスの幹は、どれ？ (杉崎光明)

スタッフだより

シジュウカラの巣で作った苔玉 (岡安栄作)

表紙のことは

三上 修 (北海道教育大学)

サクラの蜜を盗みに来たスズメ (北海道函館市五稜郭公園にて撮影)

戊辰戦争の終結地である五稜郭公園では、毎年 GW 頃に約 1600 本のサクラが咲きますが、スズメはその花を落としてしまいます。嘴が太いので花の正面から蜜を吸うことはできず、花床筒を噛み切って蜜を盗むからです。けしからんと思いきや、スズメはサクラにつく害虫を食べてくれますから総合的には花見に貢献しているようです。



年間テーマ 共存・共生について

日本では野生生物のために人間が立ち入らない場所を指定していくことは容易ではありません。そんな中、重要になってくるのが共存と共生という考え方です。先人が自然の恩恵を大切に、自然を神として崇拝していたことを考えればおこがましい言い方もかもしれませんが、共存とは私たちが暮らしている場所で野生生物と一緒にいることを許容することです。そして共生とは一歩進んで同じ場所で野生生物と支え合って生きていくこと。野生生物からの恩恵はさまざまですが、その中には野生生物からもらう癒しもあるでしょう。今の日本で野生生物を守っていくためには、この共存と共生の考え方を啓発していく必要があると考え、年間のテーマとしました。